

新花巻図書館整備特別委員会会議記録

- 1 日 時 令和2年4月21日(火)
午前10時00分 開議
午後 0時 2分 散会
- 2 場 所 市議会委員会室
- 3 出席委員
- | | | | |
|------|--------|--------|--|
| 委員長 | 伊藤盛幸君 | | |
| 副委員長 | 佐藤峰樹君 | | |
| 委員 | 菅原ゆかり君 | 久保田彰孝君 | |
| | 照井省三君 | 羽山るみ子君 | |
| | 横田忍君 | 佐藤現君 | |
| | 藤井幸介君 | 照井明子君 | |
| | 若柳良明君 | 佐藤明君 | |
| | 盛岡耕市君 | 高橋修君 | |
| | 内館桂君 | 大原健君 | |
| | 櫻井肇君 | 阿部一男君 | |
| | 本館憲一君 | 近村晴男君 | |
| | 藤原伸君 | 伊藤源康君 | |
| | 藤原晶幸君 | 鎌田幸也君 | |
- 4 欠席委員 委員 瀬川義光君
- 5 地方自治法第105条の規定による出席者 議長 小原雅道君
- 6 事務局職員
- | | |
|--------|-------|
| 事務局長 | 藤原睦 |
| 議事課長 | 久保田謙一 |
| 議事調査係長 | 高橋俊文 |
| 主査 | 伊藤友美 |
- 7 説明員
- | | |
|----------------------------|--------|
| 副市長 | 藤原忠雅君 |
| 副市長 | 長井謙君 |
| 建設部長 | 遠藤雅司君 |
| 生涯学習部長 | 市川清志君 |
| 建設部次長兼
新花巻図書館
周辺整備室長 | 佐々木賢二君 |
| 生涯学習課長 | 佐々木正晴君 |

- 8 その他 一
- 9 会議に付した事件 別紙のとおり
- 10 議事の経過概要 別紙のとおり

新花巻図書館整備特別委員会 委員長 伊藤 盛幸

新花巻図書館整備特別委員会

日 時 令和2年4月21日(火)
午前10時
場 所 市議会委員会室

1 事 件

整理番号	事 件 名
1	新花巻図書館の整備に関することについて

2 その他

(開 議 午前10時00分)

◎委員長(伊藤盛幸君) おはようございます。

ただいまから、新花巻図書館整備特別委員会を開会いたします。まず、3月18日の本委員会におきまして、委員の皆様から、小委員会を設置すること、あるいは議会として図書館についての学習会をしてはどうかと、そしてまた、本委員会の時期を長くではなく、可能な限り速やかにという御意見もいただいたところでございます。小委員会の設置につきましては、その内容を含めまして、次の委員会で決定するというところで、御了解を頂戴しておりましたので、本日は、この件につきましてを議題とするほか、市当局から副市長以下の出席を求めていますので、市からの説明と質疑という形で進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは最初に、小委員会の設置についてお諮りをいたします。本委員会の円滑な調査のため、会議規則第100条の規定により小委員会を設置することにいたしたいと存じます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長(伊藤盛幸君) 異議なしと認めます。よって、小委員会を設置することに決しました。

次に、小委員会の名称についてお諮りをいたします。小委員会の名称は、新花巻図書館整備小委員会とすることにいたしたいと存じます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長(伊藤盛幸君) 異議なしと認めます。よって、小委員会の名称は、新花巻図書館整備小委員会と決しました。

次に、小委員会の委員定数についてお諮りをいたします。小委員会の委員の定数を8人といたしたいと存じます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長(伊藤盛幸君) 異議なしと認めます。よって、小委員会の委員の定数は8人と決しました。

次に、小委員会の委員の選任についてお諮りをいたします。当職から、照井省三委員、佐藤峰樹委員、照井明子委員、佐藤明委員、盛岡耕市委員、高橋修委員、大原健委員、そして私、伊藤盛幸の8人を指名いたしたいと存じます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長(伊藤盛幸君) 異議なしと認めます。よって、小委員会委員には、ただいま指名いたしました委員を選任することに決しました。

お諮りいたします。小委員会の委員長には、新花巻図書館整備特別委員会の委員長が、小委員会の副委員長には、同じく新花巻図書館整備特別委員会の副委員長が当たることにいたしたいと存じます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長(伊藤盛幸君) 異議なしと認めます。よって、小委員会の委員長、副委員長につきましては、それぞれ、新花巻図書館整備特別委員会の委員長、副委員長が当たることに決しました。なお、本日の特別委員会終了後、委員会室におきまして小委員会を開き、今後の

進め方等について協議をいたしたいと存じますので、御参集をお願いいたします。

次に、調査に入りますが、説明員をお呼びいたしますので、暫時休憩をいたします。

(休 憩 午前10時 5分)

(再 開 午前10時 5分)

◎委員長（伊藤盛幸君） 再開いたします。

本日は、説明員として、藤原副市長、長井副市長、市川生涯学習部長、遠藤建設部長、佐々木建設部次長、佐々木生涯学習課長に御出席をいただいております。

それでは、次第1の事件、整理番号1、新花巻図書館の整備に関することについてを議題といたします。新花巻図書館の整備につきましては、これまで一般質問等において、当局の考えを聞き、議論がなされてきたところではありますが、本特別委員会の設置に伴い、改めて当局から、本日配付されております資料等を含めまして説明をお願いいたします。

市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 本日は説明の機会をいただき、大変ありがとうございます。今日は、主に図書館建設候補地の選定についての資料を提示いたしまして御説明したいと考えておりますが、その前段といたしまして、平成29年8月に策定いたしました新花巻図書館整備基本構想について、また、場所選定にあたっての図書館の規模の設定、国による支援の概要、それに関連いたします花巻駅自由通路について、そして、今後の進め方について御説明をしたいと考えております。資料をもって説明をさせていただきたいと思いますので、大変申し訳ありませんが、着席しての説明をお許しいただければと思います。

まず、新花巻図書館の建設に関しましては、平成29年8月に新花巻図書館整備基本構想を策定いたしました。本日資料1としてお配りしております。まずはこれについて御説明したいと思います。基本構想策定に関しましては、パブリックコメントや市民説明会を開催するなど、市民参画の手法も経て策定したものでございます。この構想は、平成24年10月に花巻図書館整備市民懇話会から提案のありました花巻図書館への提言を十分踏まえたものであり、平成28年6月には市民懇話会のメンバーだった皆さんにお集まりいただき、意見交換を行った上で、提言で示された3つの基本コンセプトを新しい構想においてもほぼ同様の内容で整備の基本方針として受け継いだものであります。その基本コンセプトを受け継いだ基本方針は9ページでございますが、御覧いただきたいと思います。「本市は、宮沢賢治や萬鉄五郎をはじめとした多くの先人を輩出、江戸時代の先人を顕彰した「鶴陰碑」に記された人々は、自らの研鑽に精進し学術文化はもとより地域や産業の振興と発展、そして後継者の育成に努力を重ねてきた。花巻には歴史的に学びの風土があり、この精神は私たちも次の世代に受け継いでいかなければならない」というような視点から、新花巻図書館の整備に当たっては、市民一人一人の生活や活動を支援することを基本的に考えながら、先人が育んできた学びの精神を受け継ぎ、図書館が次世代を担う子供の読書活動を支援し豊かな心を育てる施設として、また情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指す、そして、さらに具体的な3つの基本方針を定めたところであります。1つ目は、「郷土の歴史と独自性を大切に、豊かな市民文化を創造する図書館」でありまして、花巻市は輝かしい功績を残した数多くの先人を輩出、この先人たちを顕彰し次の時代を担う子供たちにその精神を継承し、郷土を愛する心を育むことができるよ

う、郷土資料や先人の資料の充実を図る。2つ目は、「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」でありまして、幼児、子供、高齢者、障がい者、全ての市民が気軽に利用できるよう、親しみやすく使いやすい施設。自然や周辺に調和した明るくゆったりとしたスペース。読書はもちろん、くつろぎの場でもあり、交流の場ともなる施設。3つ目が「暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館」であり、これからの図書館は、市民の読書や生涯学習を支援するだけでなく、情報を得る場、生活、仕事、教育、産業など各分野の課題解決を図る図書館であることが求められているため、広い分野にわたる資料やレファレンス（検索・相談）機能の充実を図るとしているところであります。

そして、整備方針ということで、施設に関することとして、ユニバーサルデザイン（バリアフリーへの対応）、十分なスペースを確保、先人や郷土資料のスペースを設置、子供スペースを設置、防災、防犯対策、環境へ配慮、必要な駐車スペースを確保、施設の併設等の検討。

蔵書資料に関することといたしましては、広い分野の収集、これは高度化する市民ニーズに対応するため、生活や暮らし、趣味に関わる資料のみならず、専門的な資料や地域の資料など、広い分野の資料収集。そして先人や郷土資料を充実、先人や郷土に関する資料、本市行政資料など、本市に関わる資料の総合的な管理収集保存。視聴覚資料や電子資料の活用として、DVD等による視聴覚資料のみならず、デジタルデータ資料の保存活用、インターネットを活用したデータベースなど、新しい電子サービスに対応しております。

運営に関することといたしましては、利用しやすい開館時間、利用者の視点、市民ニーズを把握するために、市民の意見を聴く機会を設けるとともに、図書館協議会等において協議しながら利用者の視点に立った運営をしていくと。図書館ボランティアとの協働、市民の意見を反映しつつ、充実したサービスを提供するためには、ボランティアとの協働が不可欠。図書館ボランティアとの協働によるサービスを提供する。職員体制の充実、司書資格を持つ職員を計画的に配置するなど、職員体制の充実を図り、また、専門的な知識を深め、多様な年代、レファレンスサービスに対応できるよう、研修などにより職員を育成する。

そして、サービスに関することといたしましては、先ほど来お話ししておりますレファレンスサービスの充実、利用者の調査研究、課題解決に求められる資料や情報を的確に提供できるよう、レファレンスサービスを充実したい。中央図書館としての機能、新花巻図書館は、市内全館の中央図書館としての役割を担う施設として、各館のサービスや事業の調整を図るとともに、学校図書館や全国の図書館との図書館ネットワーク連携の中核を担い、また、市内の博物館や記念館等とも連携したい。情報発信を強化、利用者の拡大を図るために、若い世代やビジネスマンなどにも利用されるような図書企画に積極的に取組、広く情報発信に努める。新たなシステムへの対応、インターネット等を使った検索や予約、図書館向けデジタル資料や各種データベースの閲覧など、新たな図書情報システムにも対応しております。

これらの整備方針に続きまして、12ページであります、（3）建設場所に関する方針を定めているところです。「図書館は、市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきです。交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましい。また、図書館は市街地再生に資する施設としてま

ちづくりや都市計画とも整合したものとする必要があります。本市は、平成28年6月に市街地の定住化を促進し市街地に都市機能を誘導する花巻市立地適正化計画を策定し、公表しましたが、新しい図書館はその中で示す都市機能誘導区域に整備することとし、場所によっては近隣施設との連携や他施設との複合化など、民間との連携も含めて検討し、候補地を数か所選定した上で基本計画において場所を定めることとします」と記載しております。

市議会におきましては、平成30年12月定例会、平成31年3月の施政方針及び令和元年12月定例会において、花巻駅東口のJR東日本が所有する土地を建設候補地にするについてお話ししており、報道もなされたところでありました。それにつきましては、大きな反対が聞かれなかったことから、建設場所選定について、JR東日本盛岡支社と利用できるかについて話し合いをしてきたところであり、その結果、その他の候補地との比較を説明してこなかった点につきましては、反省すべき点があるというふうに考えております。

平成29年8月に策定した新花巻図書館整備基本構想及び本年1月に公表いたしました新花巻図書館複合施設整備事業構想におきましては、新花巻図書館の規模等については記載されておられません。新花巻図書館の規模等については、今後策定する新花巻図書館整備基本計画の中で定めていきたいと考えておりますが、中央図書館としての機能を備えた新花巻図書館としては、花巻厚生病院跡地に新図書館を建設することを想定して策定された平成25年5月の段階の花巻中央図書館基本計画というのがございますが、それで定めた図書館部分の床面積は4,300から4,600平方メートルです。また、県内、近隣市で最も新しい図書館であります一関図書館の床面積が4,772平方メートルです。また、北上中央図書館は2,651平方メートル、盛岡市立図書館は1,913平方メートル、紫波町図書館が1,573平方メートルなどを参考にし、現時点においては、おおむね4,400平方メートルの広さを有する図書館整備を基本とし、必要な敷地等を検討しているところであります。また、蔵書数等につきましても、今後、新花巻図書館整備基本計画の中で、図書館の規模を検討し、当市の中央図書館として必要な蔵書数を検討していくものと考えておりますが、現時点においては、宮沢賢治、高村光太郎、新渡戸稲造とその先祖をはじめ、基本方針でも記載されております郷土の先人に関する図書はもちろんのこと、これらの研究資料や関連した資料の充実を図ってまいりたいと考えていることと、本市の行政資料の集約拠点としても考えております。また、子供たちに対しては、読み聞かせのための大型図書や紙芝居、絵本の充実、多感な時期であります中高生のためには進学や就職など、身近な関心事、この世代の生活スタイル、あるいは趣味に応じた図書も必要だと考えております。高齢者向けには、健康づくり、福祉、医療をはじめとした図書、あるいは大活字本、字の大きな図書、録音図書など。一般向けには、日常の生活や趣味、仕事に関する図書、読み物のほかに、ビジネスや個人の研究に必要な資料など、多様なニーズに対応できるような図書と資料の充実を図ってまいりたいと考えておりますが、高齢者のみならず、子供たちや親子連れはもちろん、中学生や高校生、大学生や仕事についたばかりの若者も利用し、新たな気づきと交流ができる図書館を目指したいと考えております。これらを前提に、かつ、県立図書館や国立国会図書館などの蔵書も取り寄せるサービスによる利用なども想定し、また今後、書籍のさらなる電子化も見据えながら、蔵書数を決めることが必要だと考えておりますが、一関図書館の蔵書数は現在32万冊でありまして、その収容能力は49万冊であります。このようなこ

とから、本市の図書館も、現時点においては同程度の蔵書と収容能力を想定しているところ
であります。図書館のインターネット利用などによる電子化については・・・。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長、すごく細かいころまで入っておりますので、
それは後に回してほしいと思います。当初の資料の中に、最初に候補地選定についての部分
とかたくさんあるようですから、説明だけで1時間経過する雰囲気ですから、資料ナンバー
3の1とかそちらのほうに移ってもらえませんか。

◎生涯学習部長（市川清志君） はい、分かりました。

では、その前提といたしまして、今申し上げました図書館の大きさ、4,400平米の広
さを想定しているということと、今、蔵書数は一関図書館程度を現時点では考えているとい
うこと。あと、もう1点御説明させていただきたいのは駐車場でございます。駐車場の規模
でございますが、新図書館の利用者を1日平均1,000人と想定した場合、現在の花巻図
書館では75%の人が自家用車を利用しているというデータがございます。そういたします
と、1日750台、時間で割りますと94台と計算できるのですが、近隣事例として、駅に
近い一関図書館の利用者を見ますと、1日平均1,500人と聞いておりまして、利用者が
多い日ですと2,000人を超える日もあるという状況であります。富士大学の早川教授の
御意見では、花巻駅の近隣に図書館を整備した場合、1日2,000人以上の利用者が訪れ
る可能性は十分あるというふうに御意見をいただいております。2,000人以上の利用
者が訪れる、2,000人の利用があった場合の75%といたしますと180台が必要だとい
うことから、180台の整備が必要だという観点で計算をしております。という条件から
やっておりますし、また、建設費という点も1点御説明させていただきたいのですが、建設
費ですが、一関図書館は坪単価120万円というふうに聞いておりますが、現在建設されて
いる愛知県の小牧市図書館は坪165万円。また、栃木県那須塩原市ですが、これも現在建
設しているところですが、157万円となっているデータがありまして、仮に坪単価160
万円で計算したところ、税込みで23億4,000万円というようなことが計算できまし
て、この23億4,000万円につきましては、合併特例債等で支出していくには、非常
に、これからいろんな事業もある中で大変だということもありまして、国の補助金をどうし
ても必要だという観点から、令和2年度からの新しい補助制度であります都市構造再編集中
支援事業というものを使いたいということをご希望をこれまで申し上げてきたところでござい
ます。ということで、その補助金と、またその立地場所についての比較につきましては、建設
部のほうから御説明をさせていただきたいと思っております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） それでは、初めに、立地の選定の前に補助金の概要につつまし
て御説明させていただいて、それから場所の選定に入りたいと思いますがよろしいでしょ
うか。着座にて説明させていただきます。失礼します。

それでは、国による支援について御説明いたします。都市再生整備事業の立地適正化計画
に基づく事業を個別支援制度化した都市構造再編集中支援事業について、簡単に御説明した
いと思います。資料ナンバー2も併せて御覧ください。この事業につきましては、国土交通
省の都市局が所管します令和2年度に新たに創設されました個別支援制度でございまして、
令和2年度予算といたしましては国費で700億円が措置されてございます。この制度は、

立地適正化計画に基づき、市町村や民間事業者等が行う一定期間内、おおむね5年の都市居住機能の誘導整備や公共公益施設の整備、防災力強化の取組等に対し、国による総合的、集中的な支援を行うため、都市再生整備計画事業の立地適正化計画に基づく事業を個別支援事業化したものでございます。主な補助要件といたしましては、事業主体は、市町村、市町村都市再生協議会、民間事業者となります。施行地区につきましては、都市機能誘導区域内、もしくは居住誘導区域内となっております。対象事業といたしましては、誘導施設、公共公益施設の整備、立地適正化計画に位置づけた防災力強化の取組などとなっております。ただし、誘導施設であります、医療、社会福祉、教育文化、子育て支援の施設につきましては、2分の1の補助金を得るには都市機能誘導区域内においてこの事業を行うことが必要でありまして、教育文化施設に該当いたします新花巻図書館整備にこの補助金を得るためには、新花巻図書館の建設場所を当市立地適正化計画の都市機能誘導区域内にする必要があるということでございます。補助率につきましては、都市機能誘導区域内は2分の1、50%、居住誘導区域内で45%となります。誘導施設の整備につきましては、1か所における整備に要する費用は21億円を限度とするものでございますが、補助率は2分の1となっておりますので、国からの補助金の上限は10.5億円となり、非常に手厚いものとなっております。先ほども申し上げましたが、図書館整備に挙げられます他の国の支援制度が見当たらないということございまして、この制度による国の補助を受けられない場合は、図書館の整備費用は、その全てを合併特例債を含む市の財源により賄う必要があるということになります。都市構造再編集中支援事業の制度上、花巻駅東側のJR所有地はもちろん、これから御説明いたします営林署跡地やまなび学園前、総合花巻病院跡地も都市機能誘導区域内にありますことから、都市構造再編集中支援事業の制度上は、この全てが図書館を整備する場合にも補助対象となる可能性はございます。しかしながら、この補助金は、コンパクトシティの集中展開を名目としておりまして、都市機能をまちの中心部に移すことにより、まちなかの活性化を図ることが目的でありますことから、まなび学園周辺への整備については、市街地活性化などの魅力あるまちづくりの観点で、駅前に整備される場合に比べ、評価は相対的に低くなることが想定されます。この制度に応募する自治体が多い場合には、国の採択が得られる可能性が低くなることも想定されるというところでございます。

それでは次に、都市機能誘導区域内におきます建設候補地について説明させていただきます。資料3を御覧ください。まずこの比較ですけれども、営林署跡地、それからまなび学園前、それから総合花巻病院跡地、それからJR花巻駅前というこの四つのところで比較検討をさせていただきます。JR花巻駅前以外は、三つのケースを想定してさせていただきます。大きく言いますと、ケース1は、今ある土地のあるところに図書館を建てるパターンです。ケース2は、駐車場等の問題を解消するために、市道城内大通り1丁目線、南側の市道の部分を盛土造成して駐車場を確保するパターン。ケース3につきましては、今ありますまなび学園の体育館を解体いたしまして、そこに駐車場もしくは図書館を建築するというような三つのパターンで、これは3案とも共通の事項でございます。それから、図面に書いてありますが、ちょっと分かりづらいので御説明させていただきますと、こちらの西側の黄色の箇所、こちらにつきましては皆さん御存じだと思いますけれども、下の市道の部分についてかなり脆弱な擁壁があって、地盤を押さええている格好になりますので、建築法上、高さの2倍部分につき

ましては、建築の制限がかかるという前提でこちらの部分に線を入れております。それから東側につきましては、今ある病院を解体した後に、自然の地盤ののり面で戻した、要するに構造物をつけないで自然な状態で戻すエリア、勾配を2割で設定しておりますが、それで記してございます。その結果、白地で残っている箇所について、どのようなものが建てられるかとか、どういう駐車場が確保できるかというのを検討した次第でございます。

それでは、営林署跡地から御説明させていただきます。ケース1につきましては、上段にケースの説明を記載しておりますけれども、営林署跡地に新図書館を建設し、病院跡地北側の平地部と、南側の市道に面した平地部に平面駐車場を整備するケースでございます。各ケースの概要といたしましては、絵の下にございます。営林署跡地に図書館本体を建設、病院跡地北側と南側には平面駐車場、これ先ほどと同じです。駐車場の可能台数ですけれども、全部で314台。ただし、まなび学園と共用しております。それから、岩手県の振興局に現在20台お貸ししております、今後も貸す必要があるということでその分は差し引いた数字となっております。体育館はそのまま使用する。整備費用につきましては、こちら路盤、舗装、外構、それから排水構造物と概略で入れまして1億900万円です。道路整備につきましては、お手元の資料3の5を御覧ください。こちらにつきまして、パターンを二つ準備してございます。今ある現道を活用して幸橋の歩道を整備する、左側のファミリーマート、④番の部分で整備した場合の費用が上段の②になっております。それから、この図面で言いますところの⑤番、都市計画が決定されています部分につきまして、直接、万代橋のほうまでアクセスするような形で整備した場合が下段となっております。上段での整備費が9億4,800万円、下段ですと16億6,000万円ということになってございまして、お金の合計は、現実的な案といたしまして現道活用している案を足してございます。この表の1と2を足した数字ということで、10億5,700万円となっております。

それでメリットでございます。まず、まなび学園利用者及び花巻小学校との連携という点で、まなび学園の利用者や花巻小学校児童の利用が見込まれるほか、両施設を活用したイベント開催などの連携が図られるというメリットがございます。

デメリットといたしましては、建築面積及び階層ということで、この営林署跡地の敷地が狭いために、建築面積は1,512平方メートルとなります。新図書館の規模といたしまして、先ほど市川生涯学習部長からも御説明ありましたが、4,500平米メートル程度想定しておりますため、3階建てにする必要があるということです。また、振興局西側の市道につきましては、振興局は現在、北西の出入りに面しているために、市道廃止して、敷地を広くとることはできないというふうになってございます。

駐車台数につきまして、現在のまなび学園の駐車台数は200台でございます。新図書館の駐車場といたしましては180台必要と現在想定しておりますので、両施設合わせて必要台数は380台となりますが、ケース1で整備した場合、駐車場の整備可能台数は314台でございます。ですので、60台不足するということになります。それから必要な駐車台数を確保するために、病院跡地に、例えば立体駐車場を整備する場合は、将来の土地利用におきまして、公共施設の建設を含め、他の目的に使用することが困難となります。それからまなび学園自体は、耐震補強を実施済みでありまして、今年度から順次、外壁や給排水設備の改

修、エレベーターの改修など長寿命化を実施することとしておりまして、今後も長期の使用が可能でありますことから、必要台数を確保するためにまなび学園前に立体駐車場を整備することにつきましては、まなび学園の日照を遮るなどの施設の利用環境を悪化させるような建設は現実的ではないと考えてございます。また、将来、まなび学園を解体して、他の公共施設等の用地として利用する場合におきましては、現在のまなび学園の建物よりも南北に奥行きのある建物を建設することが困難となります。また、その公共施設のための十分な駐車場の確保も困難となりますことから、新たな公共施設用地としての可能性が極めて低くなるということです。駐車場を確保するために、旧総合花巻病院の東側にあります第2駐車場、右側の点線、花巻小学校の下に点線を入れております第2駐車場の土地を購入し、駐車場を整備することも考えられますけれども、病院解体後に駐車場に進入するためには、この絵で見てもらえば分かりますけれども、今まで出入りしたところがなくなってしまいますことから、花巻小学校側から進入するしかないというふうになります。ただし、現地のほう、幅員も狭いので拡幅整備の必要があるということ、それから図書館までの距離も遠く、かなり距離を歩くことになるということでございます。駐車場からの距離で見ますと、病院跡地に設置整備する駐車場から図書館までの距離が遠く、屋外を歩く必要がございます。また、広場を整備したいとした場合には、敷地内に余裕がなく、図書館周辺に芝生広場を整備することができない。

それから道路整備につきましてです。こちらは東西のアクセス道路であります市道城内大通り1丁目線の歩道につきましては、一部ついている箇所もございますが、片側歩道で狭隘です。そのため歩行者の安全確保のために整備が必要となります。振興局西側十字路から万代橋まで直通する都市計画道路を整備する場合、こちらは黄色の⑤番です。城内工区西側から大通り工区まで、3工区、3工区といたしますのは、資料3で言いますところの⑤、⑦、⑧の合計になります。合計は16億6,000万円となります。それから各工区の整備期間は最短でも5年から7年でございます。前工区の整備完了時期は早くとも令和9年度と見込まれます。都市計画道路を整備する場合、幸橋の南側の橋を架け替える必要がございますけれども、下を通る市道吹張町坂本線から橋までの高さを建築限界として4.7メートル以上確保する必要があります。そうしますと、橋の前後が勾配となりまして、歩行者や自転車などの通行者の利便性が低下するということがございます。それから振興局西側十字路から万代橋へ直通する都市計画道路を整備する場合、多額の費用を要すること、それから完了時期が早くとも令和9年となることから、都市計画道路整備せず、現道の位置で大通り工区まで整備した場合、こちらは、④、⑦、それから⑧の合計となりますが、9億4,800万円となります。各工区の整備区間は最短で5年から6年でございます。整備完了時期は早くとも令和8年と見込まれるところでございます。道路整備に当たりましては、平成24年に開催しました都市計画道路の代替道路の説明会及び平成29年城内工区の整備事業の説明の際、複数の地元地権者から反対の意見がありまして、用地交渉には相当な時間を要することが想定され、完了時期はさらに遅れることが懸念されます。それから、イトーヨーカ堂側、北側から旧総合花巻病院の横を通る南北の道路につきましては、高低差が大きくて、急勾配のため、道路整備は困難な状況となっております。

次に、交通アクセスの面です。花巻駅からは徒歩10分程度あるということで遠いと。そ

れから、電車利用者につきましては、花巻駅から市街地循環バスに乗り換える必要がございます。ただし、市街地循環バスにおきまして、今後50年後も運行維持できる保証はないということでございます。それからにぎわい効果につきましては、図書館の集客効果をいかしたにぎわい効果が弱いのではないかと判断でございます。図書館の併設カフェにつきましては、図書館にカフェを併設する場合は、図書館利用者とまなび学園利用者の利用しか想定されないことから、採算性が駅前に比べ相対的に低くなると想定されるということでございます。

次のページを御覧ください。図書館の整備着工時期につきましてです。図書館本体の整備時期は、令和3年に基本設計、令和4年に都市再生整備計画の策定、令和5年に実施設計を行い、令和6年の着工が可能と想定され、完成は令和7年度と想定されます。開館は令和8年度上半期頃が想定されるということです。駐車場の整備につきましては、病院の解体及び土壌汚染対策が令和2年度中に完了する場合には、令和3年に測量設計、工事発注となり、令和4年の完成が想定されます。ただし、病院解体後の詳細な土壌汚染調査の結果によりましては、予想以上の土壌汚染対策が必要となり、整備が遅れるという可能性もございます。また、病院の解体につきましては、今ある既設の構造物が道路や近隣建物に影響を及ぼしている可能性があり、解体には想定以上の費用を要する可能性もございます。解体につきましては、総合花巻病院で実施するものではございますが、現在、総合花巻病院の計画には正確な費用が含まれておらず、解体費用が高額となる場合は、解体及び土壌汚染対策の完了までに現時点で想定されているより期間が要する可能性がございます。

国庫補助金につきましてです。国庫補助制度の都市構造再編集集中支援事業において、まなび学園周辺に整備する場合には、制度上は補助金の対象にはなりませんけれども、市街地の活性化など、魅力あるまちづくりの観点で、駅前に整備する場合に比べ評価は相対的に低くなると想定され、多数の他自体により補助の応募があった場合には、採択の可能性が低くなるということが懸念されます。

評価といたしまして、建築面積が狭く3階建てになり、必要な駐車場の台数を確保できません。駐車場整備においては病院解体後にはなりますが、病院跡地の既設構造物が道路や近隣建物に影響を及ぼしている可能性があり、解体には想定以上の費用を要する可能性もあります。解体につきましては総合花巻病院で実施するものではございますが、現在、計画には正確な費用が含まれておらず、解体費用が高額となる場合は、完了までに現時点で想定されるより期間を要する可能性がございます。道路整備が必要であり、都市計画道路を整備した場合、整備費用は概算で16億6,000万円を要し、都市計画道路を整備しない場合であっても概算で9億4,800万円を要します。また、複数の地元地権者の反対がございますことから、用地交渉には相当の時間を要することが想定され、完了時期が遅れることが懸念されます。図書館の集客効果をいかしたにぎわい効果が弱い。交通アクセスにつきましては花巻駅から遠いため、電車利用者は花巻駅から市街地循環バスに乗り換える必要があるということで、以上から、駅前に比べまして相対的に評価は低いと考えられるという評価としてございます。

続きましてケース2です。こちらにつきましては、ケース1に加えまして、病院跡地南側の市道に面した跡地の窪地部分を盛土造成後、平面駐車場を整備するケースでございます。

こちらのケースの概要ですけれども、同じところは説明を省略します。営林署跡地は一緒です。下の二つ目、病院跡地北側平地部分と、病院跡地南側の市道に面した土地を造成後に平面駐車場と整備し、駐車場の可能台数は410台。条件は先ほどのケース1と同じです、括弧書きはですね。体育館は同じです。整備費用につきましては、合算で12億4,800万円。駐車場の整備費は、盛土の造成費が加算されますので、3億円必要ということになります。

メリットといたしましては、駐車場の台数につきまして、現在のまなび学園の台数は200台、新図書館は180台と先ほど申し上げましたが、両施設の必要な台数は380台となりますが、このケースの場合は410台ございまして、必要台数に対して充足いたします。それから、まなび学園利用者と小学校の連携はケース1と同じです。建築面積及び階層もケース1と同じですので説明を省略いたします。次のページを御覧ください。

◎委員長（伊藤盛幸君） すみません、次のページまでいくと時間ばかりかかるので、資料3の2、3の3のケース1の部分だけかいつまんでお願いしたいと思います。

◎建設部長（遠藤雅司君） すいません。それでは、資料3の2、まなび学園前ケース1を御覧ください。こちら条件は一緒です。こちらにつきましては、まなび学園の前に図書館を建設するパターンでございます。駐車場の利用方法は、先ほど説明しました営林署跡地と一緒にございます。体育館は継続使用、整備費用につきましては、駐車場の整備費用といたしまして1億900万円、トータル10億5,700万円となります。

メリットです。建物面積及び階層につきましては、4,500平米を想定しておりますけれども、建築面積は2,268平米を確保でき、階層2階建てとすることができるというメリットもございます。それから駐車場からの距離につきましては、図書館からそれぞれ、ほぼ真ん中に図書館がございまして、駐車場からの距離は近いというメリットもございまして。まなび学園利用者と小学校の連携は先ほどの説明と同じですので省略いたします。

次のページを御覧ください。駐車場の台数です。こちらにつきましては、先ほど申し上げましたとおり380台必要なところ311台でございまして、70台程度不足いたします。そちらにつきましては、駐車場を立体駐車場として整備する場合、将来の土地利用におきまして、公共施設の建設を含め、他の目的に使用することが困難となります。その下の駐車台数につきましては、先ほどの営林署跡地と同じ記載ですので省略いたします。道路整備も同じです。交通アクセスも一緒です。にぎわい効果、カフェに関しても一緒です。

次のページを御覧ください。まなび学園の影響について御説明いたします。デメリットです。まなび学園は耐震補強工事を実施済みでありまして、今年度から外壁、これは先ほど説明したとおりです。下のポツです。図書館敷地がちびっこ広場を含めた芝生部分にかかるため、この広場が狭くなるというデメリットもございまして。国庫補助金につきましてはの説明は先ほど同様ですので省略させていただきます。

評価です。建築面積は十分でございまして、2階建てにはできませんが必要な駐車場台数を確保できません。駐車場を整備するための不安要素につきましては、先ほど説明した内容と同じでございます。道路整備につきましては、こちらは金額が16億6,000万円ということでございます。こちらは一緒です。図書館の集客効果も一緒になります。1番下のポツですね、まなび学園は今後も長期に利用することを想定しておりまして、まなび学園の日照

を遮るなど施設の利用環境を悪化させるような図書館の建設は現実的ではございません。また、将来、まなび学園を解体して他の公共施設の用地として利用する場合においては、これも先ほど説明しましたが、現在のまなび学園の建物よりも奥行きのある建物ができないということと、駐車場がないということで、新たな公共施設用地としての活用が極めて低くなるということでございます。ということで、相対的に評価が低いというようなことで評価してございます。

続きまして、資料3の3です。こちらは、旧総合花巻病院跡地に図書館を建設するケースでございます。ケース1につきましては、総合花巻病院跡地の北側平地に図書館を建設いたしまして、その南側の市道に面した部分には平面駐車場を整備する、あとは、残りのまなび学園の部分と営林署跡地を駐車場に使うというケースでございます。こちらにつきましては、各ケース概要の3番目、駐車可能台数は294台でございます。整備費用につきましては、駐車場の整備費用は5,000万円、道路の条件は一緒でございます、全体の整備費用が9億9,800万円となります。

メリットにつきましては、先ほど御説明したとおりまなび学園利用者と小学校との連携が図られるということでございます。

デメリットにつきましては、建築面積及び階層でございます。こちらにつきましては、敷地が狭いため建築面積は1,764平米となりまして、図書館の規模としては3階建てとする必要がございます。それから図書館の面積を広げるために、南側の窪地ですね、高さ約10メートルの大規模な盛土整備することも考えられますが、この点につきましては、経年に伴います盛土の沈下のほか、地震や豪雨時における盛土の安定性にも課題がございまして、一般的に建物の地盤としては適さないということでございます。また、当該盛土部にくい基礎により建物を建築することも考えられますが、盛土沈下に伴います建物の土台の空洞化や、地震豪雨による盛土の崩壊を防止するための対策費用を要するという事です。それから東側のほうもあいてございますけれども、ここの部分は城の堀跡でございまして、病院建設の際に崩壊され、破壊されておりますところが多いのですが、これ以上の改変は避けて、保存に努める必要があると考えてございます。

駐車場台数につきましては、台数以外は記載の内容は一緒ですので省略させていただきます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 次に資料3の4をお願いします。

◎建設部長（遠藤雅司君） 続きまして、資料3の4、JR花巻駅前の候補です。こちら既に御案内のとおり、花巻駅前のタケダスポーツの敷地に新図書館を建設し、前面に芝生広場、南側に立体駐車場を整備するケースでございます。こちらにつきましては、条件といたしまして、なはんプラザ南側の駐車場の土地に立体駐車場、3層4階を建築します。駐車場可能台数は、これによりまして406台、これはなはんプラザと共用となります。駐車場は有料、図書館利用者は一時無料といたします。整備費用につきましては、駐車場整備に8億3,800万円、広場の整備に1億6,000万円、タケダスポーツの解体にかかる費用が4,100万円、建物補償費1,800万円、トータル10億5,700万円となります。

メリットといたしまして、建築面積及び階層でございますけれども、こちらは階層を2階建てにすることができます。

駐車場につきましては、必要台数361台に対しまして406台が可能であり、必要台数を充足いたします。それから花巻駅前に整備することにより、図書館利用者のみならず駅利用者、なはんプラザ利用者の利用が見込まれます。駐車場利用者の使用料の収入が見込まれます。現在、平面駐車場181台におきます平成30年の駐車料金の実績は2,009万円となっております。

道路整備、歩行者の安全につきましては、花巻駅前であり、歩行者の安全確保のための道路整備は基本的には不要です。図書館整備の工事の着工時期につきましては、公民連携手法により建設する場合、令和3年基本設計、令和4年実施設計及び都市再生整備計画を策定し、令和5年から着工可能、開館は令和7年が想定されます。駐車場につきましても同時期に着工し、令和5年度完成と想定されます。

交通アクセスにつきましては、電車のほか、岩手県交通の路線バスや市街地循環バスが接続する公共交通の結節点であり、旧町地域からのアクセス性もよいと。にぎわい効果につきましては、駅前の学習スペースを確保することにより、花巻駅を利用する多くの高校生の利用が見込まれるなど、駅利用者と合わせた不特定多数の集客効果が見込まれます。花巻駅の東西自由通路を整備した場合、東西の往来の利便性が向上し、駅前の活性化が図られますとともに、駅西と併せて一体的なまちづくりを図られます。

広場の整備といたしまして、現在の多目的広場部分に芝生広場を整備することができ、図書館及びなはんプラザと一体活用を図ることができます。また、親子連れなどの市民の憩いの場を提供することができます。なはんプラザとの連携ということで、なはんプラザ利用者の利用が見込まれるほか、両施設を活用したイベント開催などの連携が図られます。固定資産税の収入といたしまして、民間施設との複合施設とした場合には、民間施設分の固定資産税の収入が見込まれます。また、JR部分の土地にいたしましても、購入しないことによりまして、土地の固定資産税の収入が見込まれます。駐車場使用料金の収入ということで、駐車場利用者の使用収入が見込まれます。補助金につきましては、こちらは先ほど説明したとおりでございますので省略させていただきますが、先ほど説明しました三つの案に比べまして、こちらは多数の地方自治体から応募があった場合におきましても、補助対象事業に採択される可能性が高いということでございます。また、駐車場の整備の一部につきましても補助金を得ることが可能です。カフェにつきましては、併設する場合は、図書館利用者のみならず駅利用者やなはんプラザ利用者の利用も見込まれ、採算性が相対的に高いと想定されます。

デメリットです。図書館建設場所の土地形状が長方形の建物となるというデメリットがあります。ただし、東側が市有地でございますので、広場や通路を確保した上で、当該市有地に図書館建物を建設して利用することは可能です。タケダスポーツの解体補償費といたしまして、解体費用が4,100万円、それから補償分が1,800万円かかります。土地の賃貸借契約ということで、こちらはJRの土地でございますので、JR側は売却しない意向でございますことから、定期借地の契約となり、土地の賃料を支払う必要がございます。土地の賃料につきましては、鑑定士の評価を終えてからJRと協議により決定する必要がございます。公民連携で整備した場合には、民間施設との面積案分により賃料を負担します。なお、現在の花巻図書館の維持運営費は年間7,600万円でございます、新花巻図書館の

維持運営費は、土地の賃料を除き、年間1億4,000万円と想定してございますので、土地賃料が図書館全体の維持管理費に占める割合は高くないというふうに考えてございます。それから立体駐車場の整備費、維持管理費です。立体駐車場の整備は概算で8億3,800万円かかります。立体駐車場の維持管理費がかかります。ただし、駐車場使用料の徴収によりまして、維持管理費の負担を減らすことが可能でございます。実績は先ほど説明しましたとおりでございます。

それから評価でございます。立地自体が好条件であり、利用者にとってアクセスがよい、JRの土地であるため土地の賃料を契約期間中に支払い続ける必要がございますが、新花巻図書館の維持運営経費の試算額、年間約1億4,000万円を想定しておりまして、土地の賃料が図書館全体の維持運営費に占める割合は高くないという評価です。公民連携により民間施設を併設した場合は、施設の面積で土地代を案分することにより、土地賃料の負担の軽減が図られます。また、民間施設部分の固定資産税収入が見込まれます。必要な駐車場台数を確保するため、立体駐車場の整備が必要であり、整備費の維持管理費はかかりますが、駐車場の使用料に負担軽減を図ることができます。花巻駅の東西自由通路、駅橋上化を整備した場合、東西の往来の利便性が向上し、駅前の活性化が図られるとともに、駅西と併せて一体的なまちづくりが図られます。以上のことから、総体的にこちらの評価が高いというふうに考えました。以上でございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） まだまだ資料があるようでございますけれども、今、膨大な御説明を頂戴いたしました。したがって、残る資料については次の機会にということをお願いをしたいと思いますし、この後、休憩を挟んで質疑ということを進めてまいりたいと思います。

市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 少しだけ今後の進め方を説明させていただきたいです。資料5としてお配りしております今後のスケジュール案でございます。具体的には、新型コロナウイルスの関係もありまして進捗が予定どおりいかないところもございますが、まずは5月以降に関係団体等と意見交換をしていきたいと考えておりますし、その後、ワークショップを5回程度今想定しておりますが、行いたいと考えております。そして、そういう中で基本計画、具体的な点を決めてまいりまして、できればシンポジウムなどを開催し、市民の意識高揚に努めたいということでございます。そういう中で基本計画を策定してまいりたいと。その基本計画の構成の案といたしまして、現段階で考えているものを7項目挙げさせていただいたというのが資料5でございます。あともう一つ、資料6として、図書館と住宅がくっついているような事例を添付させていただきましたので、これも御覧いただければと思います。大都市圏が多いという御指摘もありますが、注視しておりますのは、裏面の酒田市ライブラリーセンターという図書館なのですが、これは山形県酒田市でございまして、人口10万人程度のところでございます。駅前に図書館とホテルを一体的に整備して、ちょっと向こうに見えますが、実は賃貸住宅と立体駐車場、商業施設を一体的に整備するというものでありまして、私どもも注視している案件でございます。ただこれは、全国に公募して、中央の大手建設会社と地方の設計会社がやっているというような案件でございますが、同じくSPCでやっているようなものでございますので、注視したいと考えている案件でござい

すので、御参考にいただければと思います。以上でございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） それでは、11時15分まで休憩をいたします。

（休 憩 午前11時 6分）

（再 開 午前11時15分）

◎委員長（伊藤盛幸君） 再開いたします。

ただいま、新花巻図書館整備基本構想並びに国の補助金制度、そして建設場所の候補地についての比較検討の資料の説明がありました。それ以外の資料がありますけれども、それは後ほどといいますか、後日ということで、ここで一旦質疑に入りたいと思います。本日の説明も含めまして、皆様から質問、意見があれば御発言をお願いしたいと思います。どなたかございませんでしょうか。

照井明子委員。

◎照井明子君 ただいま御説明いただきました、そもそも大本の市の整備計画、これは都市再生整備計画というのがあります。そして、これが平成28年度から令和2年度までの計画となっている、この計画と、今回出された様々なケース、はっきり言いますと、まなび学園への設置、そして花巻駅前の設置ということに具体的にはなりません。それで、この都市再生整備計画、これはまだ生きてると理解してよろしいでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 佐々木建設部次長。

◎建設部次長兼新花巻図書館周辺整備室長（佐々木賢二君） お答えします。新しい図書館整備、あとは駐車場とか広場を整備する場合、今の都市再生整備計画は1期計画なのですが、新たな建設を進める場合には、2期の計画をつくるということになると思います。新たに5年の計画をつくり直すということになります。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井明子委員。

◎照井明子君 私が聞いたのは、新たに5年の計画をつくるということですが、この最初の、手元にあります計画期間が平成28年度から平成32年度と書かれているのですね。つまり、令和2年度までということになっておりますので、これは現在もこの計画があるという前提でよろしいですかということです。

◎委員長（伊藤盛幸君） 佐々木建設部次長。

◎建設部次長兼新花巻図書館周辺整備室長（佐々木賢二君） 計画期間は令和2年度までということになっております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井明子委員。

◎照井明子君 それをもとに考えますと、ここには、総合花巻病院が移転した後の跡地に郊外から図書館を移転させというふうなことも記載されているので、やはりこれも尊重されると理解をしたいと思います。そこで、この計画の場合には、当初、社会資本整備総合交付金、これを活用すると位置づけられておりましたが、新たな国の都市構造再編集中支援事業を活用するというので、そうなりますと、社会資本整備総合交付金より有利だという、そこら辺の比較についてもう少し詳しく説明をお願いします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） お答えいたします。端的に言いますと、この事業に関しましては、社会資本整備総合交付金から個別事業に集中的に支援するために制度が移行されたとい

うこととございますので、その交付金という事業がなくなったということとございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井明子委員。

◎照井明子君 それから二つの選択に絞られてくるのかなというふうにも捉えるわけですが、この評価というか、様々示された説明、条件比較というものを見ますと、やはり花巻駅前整備のほうが非常に優秀だというような書き方になっておまして、都市再生整備計画の中に示された当初の計画の選定が非常に低い評価となっております。これは、内部の方々が検討されて、こうした提出説明になったのか、それとも外部からの御意見なども取り入れられて、こうした市民への説明の文章になったのか、そこら辺についてお尋ねしたいと思います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） お答えします。こちらの比較資料につきましては、内部で検討したものを取りまとめたものでございます。外部の意見は聞いてございません。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。鎌田幸也委員。

◎鎌田幸也君 御質問をさせていただきたいと思います。まず今、照井明子委員からもありましたけれども、まなび学園周辺の件については、資料3の3までありますから三つの案が想定されたと。そして、現在提案されております花巻駅前周辺につきましては、1か所だけという、一つだけの案というふうに説明がされましたけれども、例えば、現在なはんプラザの東側にある駐車場、あそこは市有地なわけですね。あそこに建設をする案とか、例えば、駅の西側のほうに新図書館を建設する案というふうな検討がされなかったのか、もし検討されているのであれば、なぜ今回、駅周辺のほうは一つだけの案のお示しになっているのか。全く検討されなかったということであればそれでいいですけども、それについてお伺いをしたいと思います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 駅の周辺につきましては、当然その市有地もございまして、ある程度検討の経過の中では考えておりますけれども、やはり現段階で駐車場になっているということと、前に市長も答弁しておりますけれども、図書館が駅に近いほうがいいということと、駐車場の場所に建物を建てますとランドスケープデザイン、いわゆる景観上の関係で南側を遮ってしまうということから、広場等の活用もちょっと疑問があるということと、現在の、民有地ではありますがそこが第1候補として、まず駅前では考えられるということとお示ししたものでございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 鎌田幸也委員。

◎鎌田幸也君 景観上ということですけども、もう一つお聞きしたいのは、その駅の西側に建設をするような計画と申しますか、そういう構想は最初から持たなかったのかということをお尋ねしたいと思います。というのは、今回の説明には出されませんでしたけれども、資料4に、自由通路、橋上化の整備の概要についてというような資料も今回示されました。これですと、橋上化と図書館と何の関係あるのかという気がします。これを出してきたということは、当初、西側に図書館を造るのであれば、橋上化も、それもあいなのかなという考えも持っていると思うのですけれども、今回、この資料4の資料を出してきたというのは、こういうことがあって出してきたのかなと考えましたけれども、その点についてお尋

ねをいたします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） 御説明いたします。まず、西側のほうの検討をしたかということでしたが、検討してございません。というのは、西側は都市機能誘導区域から外れているということもございまして、補助金をいただく、要は先ほど申しましたように、図書館整備に当たっては補助金がないとなかなか市の財政も厳しいので、そちらのほうはそもそもの判断からは抜いているというのが一つでございます。あと、橋上化を持ち出したのは、以前、市長のほうも議会のときに、図書館整備と橋上化は別で進めていますという御回答をさせていただいていると思いますが、こちらの橋上化、自由通路の整備につきましても、やはり今、通っています地下道、暗くてですね、古くて遠いというのがありますし、地元の西側のほうからは、西口に改札を造ってほしいという意見もある中で、そこを橋上化して、利便性を上げようということで、図書館とは別に今までJRといろいろな事務レベルで協議してきています。ただ、こちらもいずれ整備するとなると費用が必要となるわけで、そちらの費用につきましても、この費用を先ほど申しました都市再生整備計画の図書館を基幹事業といたしまして、自由通路を関連事業として計画をつくりますと50%の補助がもらえるという利点がございます。ですので、やるやらないはこれからの話になるということも説明しようと思っ一応資料を用意したのですけれども、やるやらないの判断は別にして、もし、自由通路をこの事業の基幹事業としてやると、それほど有利なこともあるので、ぜひそこら辺も含めて考えていきたいということで、今JRと協議している中身を、この時間をお借りして御説明したいということで資料を出したところです。

今回の都市再生整備計画でお金をもらわないやり方も実は一つありまして、それは自由通路を市道として、街路で補助をもらってやるやり方もあるのですが、それは先ほど申しましたけれども、道路事業の交付金になるのです。交付金は今、だんだんだんだん国のほうでも予算を絞ってこられていまして、要望しても、今回、うちの道路ですと交付金事業は査定率が60%くらいしか来ないので、そうすると、やはりなかなか費用のほうも市で持ち出しが多くて厳しいということもあって、今回この事業につきましても、先ほど申しました単独の個別の補助になります。個別の補助となると大体100%近いお金がいただけるということで、こちらに乗せたいということでの顔出しでございました。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。近村晴男委員。

◎近村晴男君 1点お聞かせください。ちょっと図書館とは離れた話と思うかもしれませんが、前置きしておきますが、今、当市では、たくさんの方々がでているという説明はそのとおり、あと素晴らしい方々が輩出されておまして、それに関連する図書等も集めていくというのは全くそのとおりだと思いますけれども、今花巻市が1番、世界にまで名前が通っているのは野球ですよ。花巻東高校、女子の硬式野球部ができたということで先日全国放送しておりましたけれども、今回、図書館の場所は、タケダスポーツにそこを出ていって建てる格好になるのですよ。市は関わっていないと言いますが、今、花巻市はスポーツで売っているまちになっているわけです。その時に、その関連する店舗が逆になくなっていくということは、そういうことも当然頭にあるべきであって、ですから、花巻市は今、野球がすごいですが、大リーガーにも行っています。そういうときに、道具等を

扱っているお店をなくしていいのかというのは普通考えるのですよね。その辺の検討されたのか1点だけお聞きします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） その点を言われますと、特に検討はしておりません。

◎委員長（伊藤盛幸君） 近村晴男委員。

◎近村晴男君 私が言っているのは、確かに図書だから、先人の方々のことにスポットをあてるのは当然ですよ。ただ、花巻市はそれだけではないということを行っているのです。花巻が今、すごいまちだと言われているのが、大谷翔平選手とか、菊池雄星選手とか、そういう方々が出ていると。いわゆる野球で名前を売っているまちなのです。私たちも視察に行きます。そうしますと、宮沢賢治さんの話よりも、花巻はすごいですねと、大谷翔平選手の話が出るわけですよ。それくらいのまちです。市民の方々も、そういうスポーツをやっている方々が当然多いわけです。そういう関連する施設というのは大事にすべきであるということをおし述べているわけです。ですから、それを考えなかったというのは、花巻市がどういうまちであるかということが、ちょっと抜けているのですよね。一本大事な部分、それを指摘して終わります。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井省三委員。

◎照井省三君 まず1点お聞きしますが、先ほど、建設場所に関して三つ検討してきたという経過が報告されました。資料にもこういう形で検討したのだというものが出されました。これについては内部でやりましたという答弁でしたけれども、私、一般質問で聞いたのですが、URに調査を委託してきたと、これははっきりしているわけですね。URに調査委託した結果が、私たちに示されていないのですよ。URにおける調査結果がどんなものだったのか、経費をかけてやってきているわけですから、その部分についてはこういう結果となったということを明らかにすべきだろうと思うのですが、いかがでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） URの調査につきましては報告書がございますので、もし必要であれば、それにつきましても御説明をする機会を設けていただければ御説明をいたしたいと思います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井省三委員。

◎照井省三君 なぜそれを聞いたかということ、この図書館構想については、多くの議員が質問しているのですよ。そのたびに答弁は、URに調査委託しているという答弁だったので。あるときには、JR駅の東側ということが出てきました。それは、今のタケダスポーツのところではなくて、まなび学園含めた東側構想だと思えるのですね。しかし、その中身については、結果として、URに調査委託しているという形で終わっていたのが、突然、整備事業構想として出てきたので、URに調査委託したのなんだったのかと思う人も多くいると。ただ、それを今回の特別委員会で明らかにしろと言いませんが、個別の委員が求めた場合についてはきちんと調査結果について提出してほしいと、そう思うのですよね。これが先ほどの質問でした。

それで今回、建設場所についてなぜこうなったのかという調査結果について、具体的な数字を入れて報告しています。しかしその結果として、当初、市が提出している新花巻図書館

複合施設整備事業構想がやはり有利ですということが新たに示されたと。それは、資金面等を含めて、利便性含めて、駅前の今のタケダスポーツに設置することが有利だということの説明に終わっていると、このようにしか受けとめられないのですね。しかし、様々な一般質問等の中身においては、平成29年8月に出された新花巻図書館整備基本構想と今回の駅前に整備する複合施設整備事業構想について、やはり、図書館のそもそもの本質は何なんだという、基本構想と今回の複合施設整備事業構想は一致するのかという部分の質問が多かったと思うのです。その部分については、まだ、今回の資料では明らかになっていないのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 複合施設整備事業構想としてお示ししました1月の案につきましては、これが第1案としてお示しして、こんな方向ではどうでしょうかということ、これから市民からも聴いていきたいということで行ったものでございます。その中で、基本計画をつくって、そこで場所を決めますと、複数案出しまして、というところにつきましては、冒頭に申し上げましたけれども、しっかり説明してこなかったというところもあると認識しておりますので、今回、候補地を複数出しまして御説明させていただいたというような状況でございます。これから、これらも含めまして、図書館の決まっている基本構想、決まっているのは基本構想まででございますので、そこからどのような場所、あるいは複合化もできるのか、あるいは市民の皆さんは複合化を求めないということもあるかもしれません。そこは検討しながら、意見を聴きながら、基本計画という形で、今年度かけてつくっていきたいというものでございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 照井省三委員。

◎照井省三君 すいません、あと1点。そうすると、例えば、この間の複合施設整備事業構想の中では、図書館の上にテナント、あるいは賃貸住宅という説明がありました。これに対する市民の反響、ものすごく大きかったわけですね。今回、その部分については改めて明記をされていないのですけれども、その構想については消えていないわけですよ、基本的には。消えてないのですよね、その部分についての確認です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 構想として消えているわけではなくて、そういう構想もありますし、今年度それを説明しながら、公表して、まだ市民の皆様から具体的に御意見を聴く機会というのができてないという状況にあります。それで、意見を聴きながら、住宅、あるいはテナントというのが必要ではないということであれば、それを設置しないで図書館だけを設置するということもあり得ると思いますし、場所も駅前ではなくて、違う場所がふさわしいのではないかという意見が大多数を占めるのであれば、それは変更するということは当然可能というふうに考えております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 櫻井肇委員。

◎櫻井肇君 私は質問ということでございませぬ。委員長に対するお願いでございます。ただいま照井省三委員のほうから、URの調査結果の報告書を示してほしいというお話がございました。私もこのお話には同意をいたします。そこで、ほかの委員の皆さんのお話も聞いて同意が得られるのであれば、これを提出してくれということで、お諮りを願いたいと存じ

ます。今のは照井省三委員個人の話ですから。要するに、率直に言ってこの問題、当初からちょっと透明性に欠けているのですよ、どこでどうなったのか分からない。候補地が新たに3か所出てきていましたけれども、これもまだちょっと唐突な感じがするのですね。本当に検討したのかと。聞けば内部調査でしかない。要するに、後で取ってつけたようにしかみえない。言葉が悪いのですがそういうふうにもとれます。よろしくお願いします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 櫻井肇委員のほうから、URへの委託の成果品について、報告書ですね、これを全委員にとということでの意見がございました。これについては先ほど市川生涯学習部長は可能というふうに私は聞きましたが、皆さま、全委員分用意してもらおうということで、よろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） はい。それでは、そのように準備をお願いしたいと思います。

阿部一男委員。

◎阿部一男君 2点ほど質問いたします。一つは、私は今回の図書館の関係でいえば、やはり現在の図書館の運営全体をこれから新図書館において充実させるというような、本来の図書館の議論の中で大事なところじゃないかなと思うわけです。冒頭、市川生涯学習部長から、市民懇話会について基本構想の部分で触れられておりましたけれども、検討された具体的なものがまだ見えてこないというような感じがします。例えば学習室だとか、会議室の大きさとか、新聞閲覧室、子供室、あるいはレファレンスの充実に向けてどういうふうにするかとか、こういう図書館の機能全体を向上させるという意味での議論、計画の部分が見えてないのですけど、これはどういうふうにお考えなのでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） それらの大きさとか規模につきましては、図書館の基本計画を今年度つくっていきたくて申し上げておりますが、その中で選定をしていきたくてしております。市民の意見を聴きながら、今までも意見を聴いている部分でいろいろございますし、またワークショップも開催したいと申し上げました。その中で、事務局レベルでもこれぐらいではどうだろうという検討結果もございますので、それを示しつつ、御意見をお聴きし、設定していきたくて考えているものでございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 阿部一男委員。

◎阿部一男君 基本計画について、確かに、もう既に前年度において出されるのかなという議論があったわけですが、当局の説明もあったのですが、これが若干、こうずれてきているというようなことで、一番大事なところが見えてこないということで、私はやはり早くこれらの議論をしっかりするべきだと思います。それから先ほど来、照井省三委員も言っておりましたURの問題についても、私も全くそのとおりだと思います。資料をきちっと出して考えていかなければならないなと思います。それで、今日出されたこの資料の中で、私驚いたのですけれども、まなび学園周辺の場合に、都市計画道路についてといいますか、道路の整備がこの事業に関連するということですが、そうなりますと膨大な金額がかかるということで、例えば、駅前の部分と、総合花巻病院近辺の図書館の建設といった場合に、これはもう決定的な違いになると思うのですよ。私は少なくとも、今まで市長が議場で、この問題について質問されても、この道路関係についてはほとんど説明がなかったんじ

やないかなと思います。あるいは、あったかもしれない。私も聞き逃したかもしれませんがけれども、議論としてはなかった。それが今、いきなり藪から棒のように、この計画が連動しているのだよということは、これはやはり情報が、今まで非常にその手抜きがあったんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺のところはどう考えているのか。例えば、この事業はこの事業として、都市計画として進める。これは花巻市でも持っていると思います。しかし、今回の図書館の関係とは別に説明しないと市民は混乱するのではないのでしょうか。連動しているんだよ、とても無理かなというようなことにもなりかねないと思うのです。それはちょっと私は問題があると思いますけれども、その辺はどうなのでしょう。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） これまで道路につきまして、具体的にこのように金額をお示ししておりませんでしたけれども、やはり交通のアクセスとか、歩道があるなしとかにつきましては、行きやすい場所とかという点につきましては若干説明してきていたつもりではございます。駅前も当然あそこは県道で、融雪の道路でもありますという点もお話しておりましたし、総合花巻病院の前の道路ですと、やはりこれから整備しなければいけない、通りづらいのではないかという話もした記憶が私もございます。ただ、具体的な金額というのを今回お示したのでありますので、それらも踏まえて、市民の皆様にも議論いただければと思っております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 阿部一男委員。

◎阿部一男君 私も何回か図書館の問題で質問してきましたけれども、今まではほとんど、この点については答弁なかったと思います。いずれ十分その辺のところは、今後のこともあるので検討してもらいたいと思います。

最後になりますけれども、国の都市構造再編集中支援事業、これが今回新設になったということで、これに乗っかるという方向を示されましたが、この事業に申請するというので今、建設部長説明しましたが、例えば、これ全国で何点の事業が導入される、あるいは何億円の事業の中で、花巻で出せばどうなるのかということですね、その辺のところも市民も関心持つと思いますので、どのようにお考えでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） お答えいたします。今回新たに新設された制度ということで、700億円の国費というお話をさせていただきましたけれども、実際にこれに関してどれぐらい手が挙がるかというのは、これからの話でございますので正直分らないところです。ただ、やはり、今ちょうど皆さん中心市街地の活性化というのはどこも課題として持っている中で、多分うちの市だけではなくて、そういうものを使って、いろんなものを整備したいという自治体はあると思うのです。ですので、想定の話だけで恐縮ですが、それが限られた700億円という単位の中で、多く要望が出てくると、当然、査定が入ってくる。そうしたときには、できるだけ中心市街地の活性化、まちなかのためにいい制度だという評価が高いほうが採択されやすいということで、今回の記述にさせていただきましたが、実際どれぐらい来て、どれぐらいの予算の中でどういうふうな配分になるかというのは、ちょっと私のところでは分かりかねるところです。すいません。

◎委員長（伊藤盛幸君） 高橋修委員。

◎高橋修君 1点伺います。駅の橋上化の資料4が出てきましたけども、これは駅の建設と同時進行で当局は考えていくというお考えなのではないでしょうか伺います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） 先ほどもお話ししましたけれども、できれば一緒にやっていると国の補助金もいただけるので、事業に向けての具体性が上がってくるというふうには考えていますが、先ほど答弁させていただきましたが、基本的にその前に市民の皆様とか関係団体の方の御意見も聴かないと決められません。何回も言うようですが、これを都市再生整備計画の2期計画に含めてやると、かなり有利な補助金をいただけるということで、今回御紹介させていただいたということです。

◎委員長（伊藤盛幸君） 高橋修委員。

◎高橋修君 あと1点伺います。前回の議員全員協議会でも質問しましたがけれども、なぜ花巻駅前で、タケダスポーツの場所じゃなければダメなのか。周りに市有地がある中で、なはんプラザもある、県内にも立体駐車場の上に図書館を建てている市もありますけども、なぜタケダスポーツの場所じゃなければダメなのか。目の前に市有地が広がっている中で、タケダスポーツの場所じゃなければダメなのかを御説明願います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） なぜあの場所かといいますと、先ほど申し上げたとおり、駅に隣接している場所というところで、まずそれが第1候補ではないかということでございます。なはんプラザというお話もありますが、なはんプラザを、あるいは改装してなり図書館にするというような御意見かと思いますが、なはんプラザは十分使われているという状況でございますので、それを改装して図書館にする必要があるのかということ、やはりそれとは別で、図書館はできるだけ駅に近くて利用しやすい。つまり、前も申し上げましたが、バスを待っている間に図書館にすることができ、電車を待っている時間に図書館にすることができ場所が、そして、できるだけ近いところ、また駐車場の場所も先ほども申し上げましたが、景観上、やはり南側を塞ぐよりも、JRの土地の部分に建てたほうが広場を前にして使いやすいのではないかという検討の経過から、第1候補をそこにしてはどうだろうか考えたものであります。JR東日本盛岡支社からは、賃貸ではありますけども貸すことができるということから、これを第1案として、先日提案したというような状況でございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 高橋修委員。

◎高橋修君 目の前であれば、なはんプラザも立体駐車場も変わらないと思いますよ。説明としては非常に市民の人たちも納得すると思いませんし、基本構想の中にも事業費に関しては財政計画を踏まえて財政負担を減らすと書いてありますけれども、それについての整合性についてはいかがですか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 財政負担を減らすというのは、つまり土地を借りてという点ですか。土地の賃貸料を払う分について、やはりお金がかかるのではないかという観点でしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 高橋修委員。

◎高橋修君 繰り返しになりますが、目の前に市有地が点在しているわけですよ。そのの上

に建設すれば、1番財政負担を抑えられるのではないですかということを行っているのです。タケダスポーツの場所であれば、壊して賃貸でやるわけですよ。周りに市有地が一切ないというのだったらまだ分かりますけれども、目の前にあるのになぜそこじゃなきゃダメなのか、財政負担の部分を考えても、どう考えてもあそこの場所じゃないほうがかえっていいんじゃないですか。いかがですか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 私どもでは、財政負担、土地を借りるということで生じるという部分はあろうかと思いますが、それを補う上で、賃貸住宅なりテナントなりという方法を検討して、今回提示させていただいたものでありまして、そこについて、やはりそれが負担だということなのであれば、それはできませんので、そこはきちんと御説明しつつ、難しいというのであれば、それはできないと思いますけれども。

我々考えたのは、やはりあの場所に図書館を造って、人を呼びたいというものでございます。そうすれば、その上に住宅という可能性もあるのではないかとということです。まちなか活性化、中心市街地の活性化というのはどこの市も課題になっていて、これだけ国も補助を出すというような中で、花巻市は、少し離れているけれども、市有地に図書館を建てるというのでいいかということです。将来を見越して、我々真面目に、いろいろなケースを考えながら、他市も参考にしながら、先ほど少し申し上げました10万人の酒田市、あるいは近隣では北上市も東口にホテルとマンションと分譲です、貸し出しですね、あそこはたしか。そういうものを民間の力を利用してつくったりしているわけです、活性化しているわけですよ。それを、我々は市の土地じゃないとだめだということやっていくべきかということです。ちなみにその土地代金につきましては、今回の比較の資料にも書いていますが、新しい図書館は年間1億以上の維持管理費がかかると考えております。現在の花巻図書館でも7,600万円から7,800万円ぐらいかかっています。そういう上で、新しい図書館、1億4,000万円ぐらいを見越していますけれども、年間かかってくる中で、土地代金というのは数%というか、経費と見込んでもいいのではないかとすることも考えております。その上で、まちなか活性化も含めると、やはり駅前が図書館立地の場所としては最適ではないかと考えたものでございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 長井副市長。

◎副市長（長井謙君） 1点だけ補足させていただきます。ちょっと今、複合化に話がそれで、多分高橋委員の御質問は場所の部分に特化した話だったかもしれませんが、財政負担の大きい小さいというのは、基本構想にうたわれているとおりに確かに重要ですけども、絶対額が大きい小さいか、これも大変重要なのです。かけるコストに対してどれだけの利益、ないしはその政策目的を達成できるかという、要するに、コストパフォーマンスというところ、ちょっと言い方が正しいか分かりませんが、かけるコストに対して十分なリターンがあるかといったところ、行政目的の達成という利益が得られるかどうかという観点からも考えなければいけないと思っております。そういう中で、もちろんなはんプラザ前の駐車場ありますね、あそこは市有地ですけども、あそこの駐車場自体、今利用率が高いこともありまして、そこを潰して建てるとなると、新たにまた別の駐車スペースを用意しなければいけないんじゃないかということもありますし、あるいは賃貸にすることによって、確

かに長年にわたって賃貸料は発生してしまうのですが、それは例えば50年に分散できるという捉え方ももちろんできますし、そういった中で、賃料も含めてどれだけお金をかけたのかということに対して、どういう利益があるのかというところを総合的に考えた中で今の提案になっているというところがございます。その利益は何かというところですが、そこは基本構想にもうたわれているような、にぎわいにも資するようなものであったり、あるいは誰からもアクセスがしやすいというようなところであったり、そういうようなところを、どこの場所で、どれだけのコストをかけたなら1番いい利益を得られるかというところをバランスの中で考えている中での御提案というような形でございます。

◎委員長（伊藤盛幸君） 羽山るみ子委員。

◎羽山るみ子君 ただいまのコストリターンという部分ですが、タケダスポーツの場所を利用するということで、出ていっていただくという、まずそういうことになるわけですが、タケダスポーツがテナントに入りたいというお声はなかったのでしょうか。もし、駅前構想になった場合ですね。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） その具体的なところまではまだ進んでおりません。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにあるかもしれませんが、本日は膨大な資料を頂戴して、またこれを研究しながら次の特別委員会、あるいは小委員会の中でも研究をして進めたいと思います。したがって、本日の委員会の調査事項はこれまでということにいたしたいと存じますが、よろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） それでは、次回委員会は6月定例会か、あるいは必要に応じては5月中にということもありますけれども、新型コロナウイルス関係もございまして、なかなか会議の設定が難しいというところでもあります。開催の際には、改めて通知をいたしますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、以上をもちまして本日の新花巻図書館整備特別委員会を散会といたします。御苦労さまでした。

（散 会 午後0時 2分）